

---

# ラブカクテルス その28

風雷人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラブカクテルス その28

### 【NZコード】

N1031D

### 【作者名】

風雷人

### 【あらすじ】

今宵は普段気にもしないようなところから聞こえてくるレシピでカクテルをお作りして見ました。ご賞味あれ。

いらっしゃいます。  
どうぞこちらへ。

本日はいかがなさいますか?  
甘い香りのバイオレットファイズ?  
それとも、危険な香りのテキーラサンライズ?  
はたまた、大人の香りのマティニー?

わかりました。本日のスペシャルですね。  
少々お待ちください。

本日のカクテルの名前はスペイナルでござります。

じゅつくつじゅつ。

俺はボルト。

知ってるかい?

俺達が出来る前はリベットつていつて、穴にそいつを入れて頭を潰して抜けなくなるのが支流だつたが、奴らは取り外しが厄介。  
そこいくと、俺達ボルトは回すだけで、締める事も外すことも出来ちゃう。

どうだいっ。凄いと思わないかい?

俺が生まれた時は、10ミリで短いボルトだった。  
俺はドリルの持ち手を固定するのが初めての仕事。  
しかし、毎日毎日振動と、埃まみれでかなりツラい生活だった。しかも扱いは雑で、油も注してもらえないし、ろくに掃除もされずに、とうとうドリルの刃先の留め金が折れて、俺はドリルと共に廃棄処分になつて解体された。

それほど長い仕事じゃなかつたが、はじめてのボルト生活にしてみれば、こんなものか。

溶かされた俺は、次にもう少し太いボルトになつた。

今回の仕事はラジオの本体を合わせて留めるボルトだつた。前とは違い、心地よい音楽が俺をいつも楽しませてくれた。いい気分だ。やはりボルトも捨てたもんじゃないと思つた。

でも俺が留めているラジオから、嫌なニュースが聞こえてきた。戦争を始めたのだと言つた。

俺達ボルト業界にはかなりの影響が出る話に、みんなが耳を傾けた。そしていくらも経たないうちに俺達は招集されて、分解されることになつた。

俺は戦闘機の翼を支えるボルトになつた。

空を飛べるなんて最高だ。

ボルト仲間は皆、俺を羨ましいがつた。

しかし、現実はそんなに甘くはなかつた。

次々に仲間のボルト達は戦闘機の機体などと共に、バラバラと散つて行つた。

海に落ちてしまつた奴らはきっと、また戻つてくるのは難しいだろう。

俺達も明日は我が身だつた。

そして、ある日俺の機体もやられる羽目になつた。

敵の銃弾は、俺の支えている主翼に飛弾して、みるみる炎が俺の周りを覆つた。

もうだめだ！墜ちる！機体はバランスを失い、真っ逆さまになつて墜落した。

しかしそこは何とか、陸地だつた。

俺はボロボロになりながらも、ホツとした。

そして俺はそれからしばらくの間、そこで眠ることとなつた。

戦争は終わったようだつた。

俺はようやく回収されてバラされた。

工場で溶かされた俺は次に、細長いボルトにされ、自動車のタイヤを支えるボルトになつた。

この仕事はキツかつた。

いつもいつも俺は遠心力との闘いだつた。

しかし、俺と今回のナットとの締め付け具合は最高だつた。

俺は奴に惚れ、奴も俺に惚れた。

相思相愛だつた。

俺達はいつも仲良く手と手を離さなかつた。

しかし、自動車は俺達より先にエンジンがやられて動かなくなつた。

俺達はスクラップ工場に運ばれ解体されることとなつた。

無情にも俺達はガリガリという音と共に引き離された。

俺は叫んだ。

ナット一つ、またどこかで会おう！

奴も叫んだ。

わかつたわつ！必ずやまた！

二人はバラバラになり、そして溶けあつた。

俺は大きなボルトになつた。

電気を送る鉄塔を支えボルトになつた。

今度の仕事は風との闘いだつた。

何とか倒れないよう俺達はお互いを強く引き合つて耐えた。

その時隣になつたボルトはかなりのつわもので、俺と話しがあつた。

俺達は長い時間そこでボルトについて語つた。

ボルトとは何だらうか。ドコから来てドコに行くのか？

ボルトとはどうあるべきか？

ボルトに未来はあるのか？

ボルトとはこの先どうなるのか？

ボルトの夢は？希望は？

ボルトに科せられた運命とは？

長い長い間。

そして俺達は静かに時を重ねた。

俺達はとつとうバラされることになった。

電気の線は地中に埋まり、俺達の鉄塔は用済みとなつた。

俺達ボルトは工場に運ばれて溶かされた。

久しぶりのいい風呂だつた。

心も体もポカポカだ。

しかし湯上がりの俺は、俺は鉄の延べ棒になつた。

俺は首を傾げた。未来はボルトは必要ないのか？

俺は悲しくなつた。

こんな終わり方があるか！

俺はまだやれる。やれるぞ！

どれくらい寝ていたのか、俺は起こされた。

久々にまたあの、忘れていた熱さで目が覚めた。

俺は小さなボルトになつた。

次の俺の仕事はロボットの部品を留めるボルトだつた。赤子を寝かしつけるための振り篭ロボットのボルト。

しかも相手のナットは奴だつた。

久しぶりに会う奴は相変わらずいい締め付け具合だつた。

俺達はお互い微笑みあつた。

赤子はスヤスヤと寝ていた。

これは夢か？

こんな幸せなボルトがあるのか？

まいい。夢でも。

俺は赤子の寝息に、うとうとしたのだった。

おしまい。

いかがでしたか？

今日のオススメのカクテルの味は。

またのご来店、心よりお待ち申し上げております。では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1031d/>

---

ラブカクテルス その28

2011年1月26日00時11分発行